

就労を支援するってどういうこと？

「キャリア教育」という言葉が様々な場所で聞かれるようになりました。子どもと接するうえで「今」に捉われず、「将来」を見据えて、また「過去」と関連して・・・といった様に時間軸で支援を考えていくことは非常に重要な観点です。

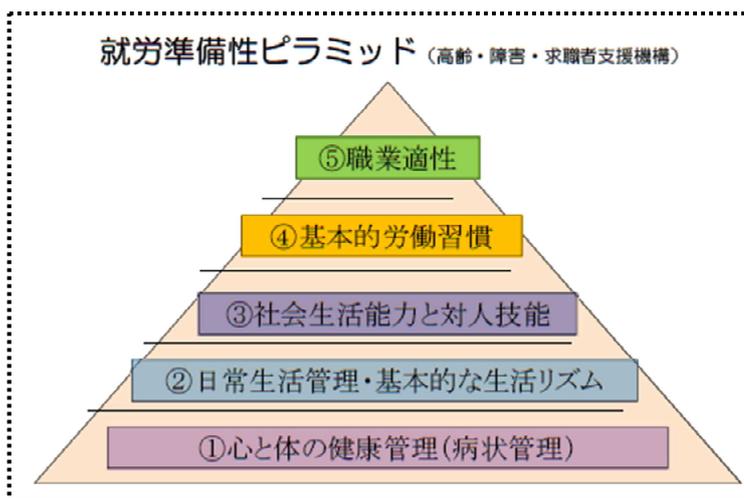
キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

平成23年1月中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

障害のある幼児・児童もいつかは「就労」つまり「働く」といった道に進みます。右図の就労準備性ピラミッドをご覧ください。

これは働くために必要な条件を図式化したものです。下の土台部分に身についていないと次のステップには進みにくくなります。多くのステップがあるため、小さい頃からの積み重ねがとても大切です。



令和2年8月5日実施 「発達障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加に向けた就労支援講座」配付資料より引用

【ピラミッドの項目内容 例】

⑤職業適性	正確性、作業スピード、持続力 など
④基本的労働習慣	身だしなみ、報告・連絡・相談、ルールを守る など
③社会生活能力と対人技能	コミュニケーション、協調性、感情コントロール など
②日常生活管理	金銭管理、余暇の過ごし方、規則正しい生活 など
①心と体の健康管理	特性についての正しい理解、服薬管理、ストレス対処 など

では、未来の「就労」を支援するために今何ができるのでしょうか。

ピラミッドの基礎部分には「自分」という存在がしっかりできていないといけません。まずは、「自分を知る」というポイントで支援をスタートしましょう。

自分を知る（自己理解）ために特に大事なものは、①得意なこと②苦手なこと③気持ちを知ることです。得意なことが分かると、自信をもって取り組める内容が分かり自己肯定感が高まります。苦手なことが分かると、工夫するポイントが分かり、自分で工夫してできること、支援を受けてできることを考えるきっかけになります。また、気持ちを知ること、働く上で大切なストレスへの対処にもつながっていきます。

【自分を知るポイント】

<p><u>得意（好き）なこと</u>を知る。</p>  <p>自信をもって取り組める内容が分かる！</p>	<p><u>苦手（嫌い）なこと</u>を知る。</p>  <p>工夫するポイントが分かる！</p>	<p><u>気持ち</u>を知る。</p>  <p>相手を理解することにもつながる！</p>
---	--	---

また、「働く」を考えると、何のために働くのかという目的が必要です。「働く」には様々な目的がありますが、理解しやすい目的は「お金をもらう」ことです。そのためには、労働→報酬→消費のサイクルを知ることが大切です。

そのサイクルを学ぶ中で、人から感謝されること、人の役に立つことを実感し、やがて働く「やりがい」として、心の中に満たされていきます。一つ一つの段階をスモールステップで取り組み、「できた！」「やった！」と自信を持つことがとても大切です。



学校だけでなく、日常でも就労に対する支援はできます。まず、「あいさつ」です。あいさつは、自分だけでなく相手を意識する活動になります。普段さりげなくしていることも相手への「思いやり」の心を育てることに有効なものであると言えます。

さらに、「お手伝い」はどのように行うかで身につけられる力が変わります。①ひとりで
行う課題の場合、「任せてもらえた！」という自信が育ち、それがやがて責任感へとつなが
っていきます。②協同で行う課題の場合、人の指示で動いたり、人と一緒に動いたりする
活動を通して、声かけのタイミングなどを学ぶ機会となります。

あいさつ

人とのつながり
を感じられる

お手伝い

ひとりで行う課題

責任感
が育つ

協同で行う課題

人の指示で動く
人と一緒に動く
ことなどにつながる

人生は一度きりです。人生の主人公である「自分」を大切に、そしてつながっている周
りの人も大切にできる人生を目指して、早い段階から成功体験を積み上げていく支援を考
えていきましょう。

<引用・参考資料>

- 中央教育審議会答申 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について」
平成23年1月
- 和田康宏 「発達障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加に向けた就労支援講座」
令和2年8月5日実施 講義配付資料